

令和2年度 学校評価書

I 経営の重点に関わること

学校名: 静岡市立高等学校 (定時制)

1 責任ある行動力と自主的・協動的な精神の涵養を図り、社会人として望ましい職業観や勤労観を身に付けた健全な勤労学生を育成する。		自己評価
2 重点目標 生徒一人ひとりの自立(自分の力を発揮して人の役に立つ人間になること)に向かって、未来起点の思考と日常の凡事の徹底により、高校生活(学習・学校行事、就業体験等)を通して、3つの資質・能力(基本的な生活習慣・基礎力、自己肯定感・自己有用感、自主性・主体性)を、生徒一人ひとりが自ら育むように、教職員、保護者、同窓会等が連携し、皆で支援する。	(1) 基本的な生活習慣の確立及び人権意識の高揚	積極的に生徒に声を掛け、些細な変化も見逃さない。問題行動には毅然とした態度で指導にあたる。挨拶を励行し、生徒間や教員とのコミュニケーションの活性化を図る。【全職員】 【学校説明】 ・生徒への積極的な挨拶がきっかけとなり、相談しやすい雰囲気醸成することができていた。 ・学校生活や学業に取り組む意味を伝え続けることで、様々な事件事故につながらないよう丁寧に指導した。その結果、本年度は特に大きな問題行動はなかった。
	(2) 授業、学校行事及び就業体験等への主体的な取組	① 学び直しや課題小テストなどを取り入れ、指導を充実させる。【全職員】 【学校説明】 ・年度当初に、生徒に対して「学校経営構想」を提示し、解説することで内発的動機づけを行った。 ・生徒の実態に合わせた指導が行われていた。 ・英語の授業においては、中学校英語の単語及び文法の学び直しの機会を設け、定着を促した。生徒は、地道に努力していた。 ・授業の中に一般常識や時事知識を入れ込み、関心を持たせた。 ② 働くことへの関心・意欲の高揚と学習の必要性・有用性の認識の向上を図る。【進路・全職員】 【学校説明】 ・学習内容が生徒の将来に結び付き、自分ごとと感じられるような提示の仕方に工夫を施し、指導を行った。 ・すべての生徒がアルバイトを行い、就業意欲を高めている。 ・学習と社会とのつながりを生徒が明確に意識するまでには至っておらず、よりつながりを意識した教材の工夫が必要である。
	(3) 母校への誇りと愛着を育む特色ある教育の推進	同窓生と連絡を取り、当時の思い出や母校に対する想いを集める活動を通して、生徒の積極性を養う。【全職員】 【学校説明】 ・同窓生347人に、閉課に係る生徒の活動について発信することができた。 ・卒業生との交流する機会を設定したことで、静岡市立高校への帰属意識をより一層高めることができた。

評価	学校関係者評価委員会から
A	・「コミュニケーション」の基礎は意図することの共有化と思います。どのような意図で教師が授業を展開しているのかが、少しずつ伝わってきているのではないかと感じています。「意味を伝え続ける」は、大切な言葉のように思います。 ・基本的には声掛けは大切な事。先生達の努力の成果。 ・授業への取組を指導されており、それが無事故につながっている。
A	・教職員がどのような目標で教育活動をしているかを、生徒と共有することは組織体として必要なことと思います。特に非常時(コロナ禍)に際して必要なことと思います。 ・授業風景がとても良かった。
A	・「働くこと」自体に意味があることを理解するとともに、それを通して自立する自信にもつながることを期待したい。 ・アルバイトではなく、正社員になる努力も必要ではないのか。
A	・少人数での指導の利点は大きいと思います。他方、社会から隔絶されているような感覚を持つことが心配です。周りには多くの先輩や教職員がいることに気づき取り組みと思います。 ・実際には、卒業してしまえば、同窓会には連絡も無いので残念。 ・先輩とのつながりも大事なことであり、良い施策と思いました。

II 各指導部・領域等に関わること

大項目	中項目	評価指標	自己評価
1 教育課程 学習指導	(1) 確かな学力の育成 【市共通項目1】	生徒に付けさせたい力を明確にし、指導と評価の一体化を実践した授業を展開する。【全職員】 【学校説明】 ・各授業において、目標やゴールを示し、生徒の活動の場を設定し、それを繰り返すことで力のつく授業を目指した。 ・単元ごとに毎回振り返りを生徒に書かせることで、形成的評価の強化を図り、授業改善に繋げた。 ・総括的評価の場面設定と評価方法の充実については、さらなる研究が必要である。	B
	(2) 道徳教育の充実 【市共通項目2】	生徒の視野を広げられるように、体験的な活動や先輩講話の実施などを通して、豊かな人間性を育成していく。【全職員】 【学校説明】 ・近年では初めて、中部地区生徒生活体験発表会に生徒全員が参加し、他校の生徒の様子や頑張りを見聞きする機会を設定した。生徒は大変刺激を受けていた。 ・社会人講話として、男女2人の先輩から、在校時の様子、就職活動、現在の職場について話を聞く機会を設定した。生徒は貴重な体験談に真剣に耳を傾けていた。	A
	(3) 特別活動の充実 【市共通項目3】	望ましい生徒間の交流が深まるよう教育環境を整える。【全員】 【学校説明】 ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、多くの学校行事が中止となった中、様々な検討や工夫を重ねた上で、3・4年合同の修学旅行が実施できたことは良かった。生徒の満足度も高かった。 ・近年では初めて、校内生活体験発表会を実施し、クラスメイトの思いや考えを知る機会を設定することができた。 ・学校行事への出席率も大変良好であった。	A
2 生徒指導	(1) 一人一人を大切に指導 【市共通項目4】	個の必要性に応じ、面談を充実させる。【担任・教育相談】 【学校説明】 ・面談週間に限らず、適時、生徒一人一人とコミュニケーションを図った。 ・4年生には定期的な進路相談を実施した。 ・時にはSCやSSWとも繋げることで、より充実した相談環境をつくり、一層の生徒理解にも努めた。	A

評価	学校関係者評価委員会から
A	・各時間の目標を共有化することは大切だと思います。目標に対して生徒が何をどのように理解したか教師が知る手立てが、評価と思います。少人数指導の利点を生かせるのかもかもしれません。 ・先生との1:1も授業は、うらやましかった。自分達の時にはなかった。
A	・このような体験を通して、他者のことを理解し、「想像」することが養われることを期待します。困難な時代に必要な社会性の大事な一つだと思います。 ・人の話を良く聞いて損はないと思う。 ・他校の生徒の様子、また、社会の情報等が得られ、生徒には貴重な体験となる。これからも継続して下さい。
A	・「望ましい」とは何を指すのでしょうか？教職員の思いが修学旅行を実現させたか推測します。大変ですが多様な機会をつくり、生徒が自信を持つことを期待します。
A	・生徒の家庭の経済状況や、自身の将来への不安が心配です。SSWと教職員との連携(どのような声掛けをすべきか)も必要と思われます。気づいていても言わない、自身気づいていないことも多いと思います。 ・生徒に合った勉強の仕方等、適時行っている。よくやっていると思う。

3 進路指導	(1)進路指導の 充実	① 組織として同じ方向を見据えてキャリア教育に取り組み、4年間という スパンで指導していく。【進路担当・全員】 【学校説明】 ・4年生の、学校設定教科「社会人入門」の授業では、求人票の見方を丁寧に 紹介し、卒業後の進路について深く考えさせた。 ・担任が職員室で常に情報共有を図ることで、生徒の進路についても、組織で 共通認識を持って進めることができた。	A	A ・先が見えない社会と感ずます。生徒が 相談できる人がいるか、また、相談相手 を獲得するスキル(関係を築く)があるか 心配です。困ったときに積極的に他者に 相談し、解決する力が必要です。
		② 進路講演会の実施や、4年生だけでなく3年生に対しても就職情報を 日常的に公開することで、早期からの自立意識の涵養を図る。【進路担 当】 【学校説明】 ・3・4年生両教室に、進学・就職に関する情報を掲示した。生徒は卒業後の進 路について深く考えることができた。 ・進路に関する講演会等に係る働きかけでは、学年の区別なく職に関する意識の 向上を促す指導を行った。	A	A ・現在、就職状況は悪くないようです。コ ロナ禍で求人状況も先が見えない時期 ですが、将来にわたり継続的に働ける場 の確保のため、引き続きご尽力を。 ・進学、就職に関する情報を生徒一人で 集めることは難しい。これからも指導を お願いしたい。
4 安全管理・指導	(1)学校安全シ ステムの構築 【市共通項目 5】	防災マニュアルの周知徹底など、平時からの危機管理意識の向上を図る。 【管理職】 【学校説明】 ・外部講師招聘による交通安全教室(年1回)と自転車点検(各学期1回)等 を実施した。 ・9月には、避難訓練と防災訓練(AL型オリジナル教材)を実施した。 ・タイミングを踏まえ、学期に複数回、学校安全についての情報を職員と共有 し、生徒には防災教育(地震、大雨、総合)を行った。	A	A ・自分のための訓練だから、しっかりや る事。 ・危機意識向上のためには、
5 保健管理・指導	(1)健康教育の 充実 【市共通項目 6】	生徒自ら正しい健康管理ができ、安全で規則正しい生活習慣を身に付け る。 【養護教諭・保健体育科】 【学校説明】 ・「保健だより」を発行し、学校保健の啓発に勤めた。 ・学期ごとに養護教諭による生徒の健康面談等を行った。 ・歯の健康や睡眠についての健康指導など、養護教諭が主体となって健康指導を 積極的に行った。	A	A ・教育の指導分野で、心身の健康自己 管理できる力を養うことは益々、重要に なっています。特に、精神面での自 己現状を認識し、意識してストレス状態 から脱出できる対処法等の指導もある のではないかと思います。 ・健康管理には、十分気を付けてほし い。
6 特別支援教育	(1)学校の実態 に応じた校内 支援体制づくり の推進 【市共通項目 7】	個々の生徒の特性を活かし、安心して授業に取り組めるような工夫を施す とともに、必要に応じて、個別の支援計画作成など、職員間での情報共有 の徹底を図る。 【全員】 【学校説明】 ・当該生徒に対する指導方針を教職員間で確認し指導支援した。 ・県および市が主催する特別支援教育研修会に積極的に参加し、その内容を他の 職員に還元した。 ・個別の支援計画作成に係る研修をあらためて行った。必要性が生じた時にはス ムーズに作成ができるよう準備している。	A	A ・特別支援教育は「個別の指導計画」に より、文書化し、それを基に事例研修を する中で共有化することでしょう。やは り、教育の原点の取り組みと思います。
7 組織運営	(1)組織・運営 の改善 【市共通項目 8】	① 日頃から職員室の同僚性を高め、相談・連絡・報告の徹底を促進す る。【全職員】 【学校説明】 ・活発な情報交換を通して、担任と教科担当の連携がうまく行われていた。その 結果、多様な生徒一人一人の実情に寄り添う支援を充実させることができ、生徒 の成長を促すことができた。 ・相談・連絡・報告のサイクルを常に回すことができ、組織運営の効果を十分発 揮することができていた。	A	A ・担任と教科担当の連携は必須です。一 人一人に合った支援ができていると思 います。
		② 教育の質の向上と働き方改革の両立を図る。【管理職】 【学校説明】 ・従来からの業務については適時、その効果と目的を点検することで業務の精 選、効率化を図り、よりよい教育の提供を目指しながら、個人の時間の使い方の 充実を目指した。	A	A
8 研修	(1)研修体制の 充実 【市共通項目 9】	単元構想の中で、「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業を実践し ていく。【全職員】 【学校説明】 ・中部定時制副校長教頭会主催の授業研究会に全職員が参加し、自身の教科につ いて研修を行った。 ・上記を含めて、多様なテーマにて、15回以上の研修を実施した。 ・単元を捉え、そのどこでどの資質・能力を育むかを各教科担当が意識し、授業 計画を立て実践した。	A	A 「主体的、対話的で深い学び」への取り 組みは参観でも感じました。多忙なため 職員室内の会話も少なくなっているの では。そのためにも教職員が本音で会話 できる場が必要と思います。従来の学校 は、教職員間、教科間、教職員と生徒間 等、垣根が高かったように思えます。垣 根を超える取り組み(話し合い)も必要と 思います。

9 保護者・地域住民等との連携	(1)信頼される学校づくりの推進 【市共通項目10】	① 学校評価書を基に、教育活動の点検、改善を図る。 【管理職】	A
		【学校説明】 ・年度途中の振り返りと後半の教育活動に向けての再確認を全職員で行った。 ・第2回の学校評議委員会では、生徒の授業に向かう姿勢と生徒一人一人に寄り添う教員の働きかけを評価していただいた。 ・他の同世代の頑張りを見せることや、学校の教育活動のねらいについて生徒の伝えていくことの大切さをアドバイスしていただいた。年度途中からでも可能なものは、速やかに実践に移した。	
		② PTA、同窓会等と連携しながら、教育活動および閉課程に向けた取組を行う。	A
		【学校説明】 ・学校だよりを毎月発行し、さまざまに生徒に語り掛ける内容を掲載することで、成長する心と姿勢の育成を目指すとともに、生徒・保護者・学校を繋ぐツールとしている。 ・特に気になる生徒については、保護者と連絡を密に取りながら指導にあたることができた。	

A	・是非、今後も学校評議員への授業公開を実施してもらいたいと思います。 ・授業を参観して、自分達の頃を思い出していました。幸せに思いました。 ・教育活動に参考になることは即実践し、改善できていることは良いことと思います。
A	・「うるさい」と思いつつも、気にかけてくれる人が周りにいることが高校生にも必要だと思います。保護者等と教職員との連携は心強いことと思います。

学校から 経営のまとめ(成果と課題)	
【成果】	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の丁寧な指導、生徒情報の速やかな共有と対処により、生徒は落ち着いた学校生活を送ることができていた。 ・学校経営構想及び個々の教育活動の目的、目標を職員と生徒が共有することで、授業を中心に生徒の学校生活を充実させることができていた。 ・同窓生との交流や閉課程に向けての準備を通して、生徒の静岡市立高校への帰属意識を高めることができた。 ・「個別の支援計画」作成準備を整えることができた。 ・学校評議員からのアドバイスを即時性を持って教育活動に反映させることができた。
【課題】	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容が将来に結び付いていると感じられたり、自分ごとと感じられるような授業を展開し続けていく。 ・母校に愛着や誇りを持つような教育活動を継続していく。 ・自己の生き方、在り方を考えさせるような教育活動を通して、将来や仕事についての考えを深めさせる。 ・授業の目標、指導と評価に一貫性、整合性を持たせるよう、より一層、学習評価の研究を進めていく。 ・生徒に丁寧に寄り添う指導とともに、最高学年を鑑み、自立やさらなる主体性を育む教育を目指す。

学校関係者評価委員会まとめ	
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちは、「後輩がいない」「卒業後、訪れる学校がなくなる」等、やはり寂しい思いを持っていると思います。しかし、授業を参観して教職員と生徒の信頼関係により、将来にわたり大切な社会性等の資質が育てられていると感じました。「本校で学校生活を送ってよかった」と感じる生徒が多いのではと、改めて思います。引き続き、素晴らしい教育実践を続けていただけたらと思います。 ・重点目標の教科の内容と社会とのつながりを学ぶことが、極めて重要と思います。また、多くの情報がスマホで入手できる時代です。「価値判断の軸をどこにおいて行動すべきか」といったことも併せて大切だと思います。 ・定時制ならではの取組が、学習指導、進路指導、生徒一人一人に対し、適切になされていると伺えます。今後、あとわずかですが、健全な勤労学生の育成をお願いします。 ・本年度は、コロナ禍のため、いろいろな行事が中止になり、生徒達はつらい年になり、大変な思いをしたと思います。残念な事に、あと1年で歴史ある定時制がなくなるのが残念です。 	